



# 1 導入編

Expressサーバや添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

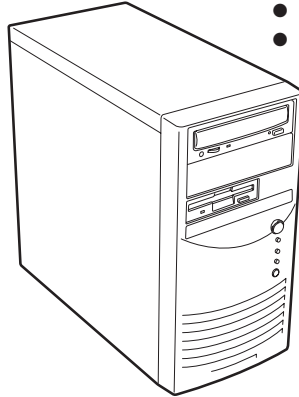
|  |   |
|--|---|
| <a href="#">Expressサーバの特長( 2ページ)</a> ..... | Expressサーバの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。  |
| <a href="#">導入にあたって( 6ページ)</a> .....       | Expressサーバをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。  |
| <a href="#">ユーザー登録( 12ページ)</a> .....       | ユーザー登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひユーザー登録をしてください。   |
| <a href="#">セットアップ( 13ページ)</a> .....       | ハードウェアのセットアップからWindows NT 4.0やBackOffice Small Business Server 4.5などのオペレーティングシステムのセットアップ、管理用ソフトウェアのセットアップの方法について説明します。<br><br>セットアップは、Expressサーバの出荷時の状態やお使いになるオペレーティングシステムによって順序や方法が異なります。13ページにあるフローチャートを参照して必要な手順を順に参照してください。 |

# Expressサーバの特長

お買い求めになられたExpressサーバの特長を次に示します。

## 高性能

- Intel® Pentium® III Processorを搭載
  - N8500-474/484: 450MHz
  - N8500-513/514: 550MHz
- 512KBの大容量セカンドキャッシュ
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス



## 拡張性

- PCIバスx4スロット
- 最大768MBの大容量メモリ
- USB対応(対応したドライバが必要)

## 高信頼性

- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能(障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能

## すぐに使える

- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版インストール済み(Windows NTモデル)

## 豊富な機能搭載

- EL Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチマスク
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

## 管理機能

- ESMPROプロダクト
- MWA(Management Workstation Application)

## 自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ

## 保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

## 便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP( BIOSセットアップユーティリティ)

## 省電力機能

スリープ機能(対応したOSが必要)

Expressサーバでは、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。各種リソースの冗長化や、ディスクアレイなどといったハードウェア本体が提供する機能と、サーバ本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止、または早期に復旧することができます。また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

| 管理分野                                  | 必要なハードウェア                           | 必要なソフトウェア   |
|---------------------------------------|-------------------------------------|---|
| サーバ管理                                 | サーバ本体機能                             | ESMPRO/ServerManager<br>ESMPRO/ServerAgent<br>MWA( Management Workstation Application )               |
| ストレージ管理<br>● ディスク管理<br><br>● バックアップ管理 | ディスクミラーリングコントローラ*<br><br>DAT/AITなど* | ESMPRO/ServerManager<br>ESMPRO/ServerAgent<br>NTバックアップツール*<br>ARCserve for Windows NT*<br>BackupExec* |
| 電源管理                                  | 無停電電源装置( UPS )*                     | ESMPRO/UPSController*<br>PowerChuteplus*<br>(注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。                          |
| ネットワーク管理                              | 100BASE-TX接続ボード<br>B4680接続ボード*      | ESMPRO/Netvisor*  |

\* オプション製品。

## サーバ管理

Expressサーバはシステムボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とExpressサーバ管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。

| 監視対象  | 機能  |
|-------|---|
| CPU   | 稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能 / 高負荷の予防機能                   |
| メモリ   | メモリ故障時の縮退運転機能、ECCメモリビットエラー検出 / 訂正機能、メモリ使用率の管理機能 |
| 冷却ファン | CPUファン稼動状態の監視機能                                 |
| 温度    | 温度監視機能、温度異常時の起動抑止 / 停止機能                        |
| 電圧    | 電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止                               |
| サーバ電源 | 電源スイッチOFFによるシャットダウン機能、シャットダウン後の自動電源OFF          |

また、MWA( Management Workstation Application )により、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上からExpressサーバの電源を投入したりすることができます。



ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、MWA( Management Workstation Application )は、Expressサーバに標準で添付されています。  
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

## ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるExpressサーバを管理するために次の点について留意しておきましょう。

### ディスク管理

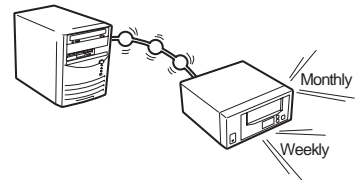
ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。Expressサーバが提供するディスクミラーリングコントローラを使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を高め、データの損失を防ぐことができます。ディスクミラーリングコントローラは、ディスクアレイのRAIDレベルRAID0、1の各RAIDレベルをサポートしています。

ディスクミラーリングコントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティを使用します。

### バックアップ管理

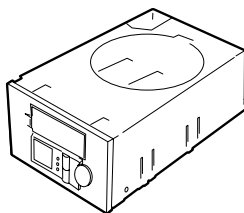
定期的なバックアップは、不意のサーバのダウンに備える最も基本的な対応です。

Expressサーバには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。



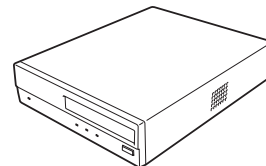
#### DAT

高性能、大容量なうえ、標準規格としての互換性も備えており、広く利用されているバックアップメディア。最大12GBのデータバックアップが可能。小～中規模システム向け。



#### AIT

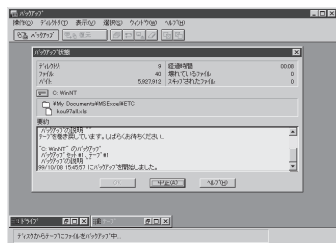
最大25GBのデータバックアップが可能。中規模システム向け。



NTBackup(OS標準)

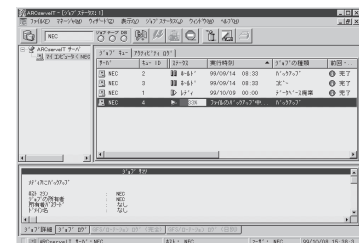
Windows NT標準のバックアップツール。

単体バックアップ装置に単純なバックアップを行う時に使用。



ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)  
国内で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。

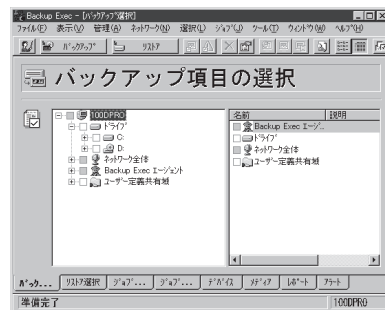
スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。



BackupExec(ベリタス社)

米国で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。

NTBackupと同一テープフォーマットを使用。スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。



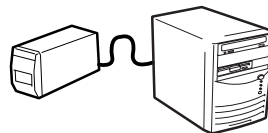
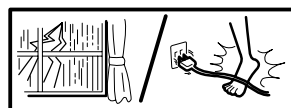
## 電源管理

商用電源のトラブルは、サーバを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるサーバの自動・無人運転を実現することもできます。

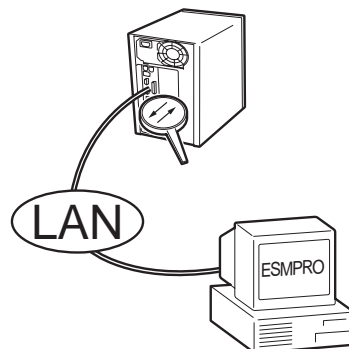
Expressサーバでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChutePLUSで管理・制御します。



## ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Expressサーバに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。

また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。



# 導入にあたって

Expressサーバを導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

## システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

### 運用方法の検討

「Expressサーバの特長」での説明のとおり、Expressサーバでは運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能や添付ソフトウェアを備えています。

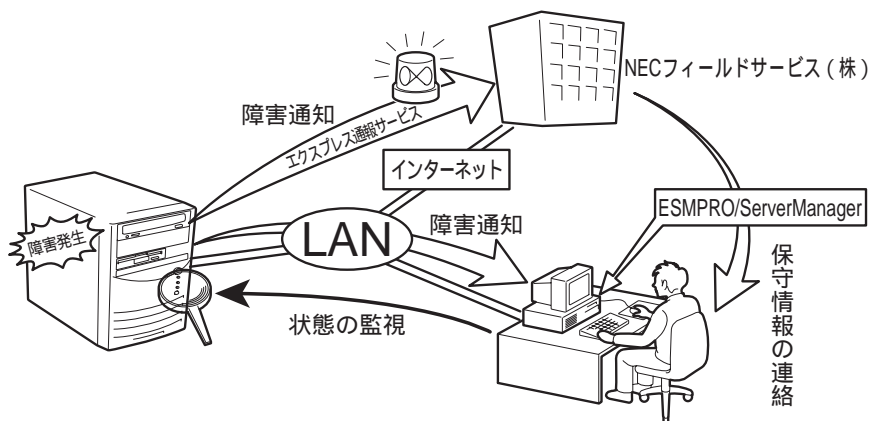
システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのような運用するか？」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。



### 稼動状況・障害の監視、および保守

Expressサーバに標準で添付された「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

Expressサーバを運用する際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。



なお、Expressサーバに障害が発生した際に、NECフィールドサービス(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

## システムの構築・運用にあたっての留意点




システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

### 出荷時の状態を確認しましょう

お買い求めになられたExpressサーバを導入する前に、Expressサーバの出荷時の状態を確認しておいてください。

- システムやオペレーティングシステムのインストール状態について

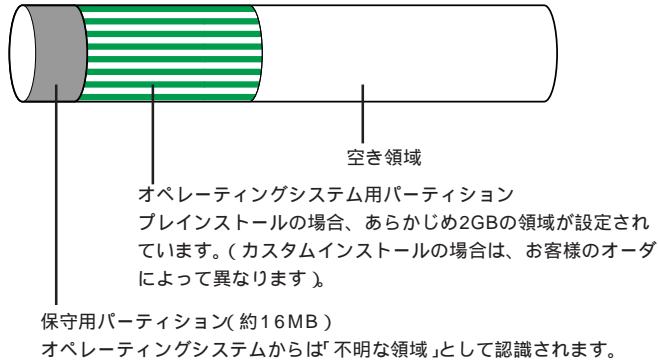
Expressサーバでは、ご注文により出荷時の状態に次の3種類があります。

| 出荷時のモデル                          | 説明   |
|----------------------------------|--|
| カスタムインストールモデル<br>(Windows NTモデル) | ビルド・トゥ・オーダーで指定された場合のモデル。<br> + ハードディスクお求めになられた内蔵型オプションデバイス(ハードディスクには、Windows NT Server 4.0 日本語版やバンドルソフトウェア、およびオーダーされたソフトウェアがインストール済みです) |
| プレインストールモデル<br>(Windows NTモデル)   | 上記カスタムインストールモデル以外でインストールモデルを注文された場合のモデル。<br> + ハードディスク(ハードディスクには、Windows NT Server 4.0 日本語版がインストール済みです)                               |
| ディスクレスモデル<br>(未インストールモデル)        | 上記カスタムインストールモデル、プレインストールモデル以外で注文された場合のモデル。<br> ハードディスクやオペレーティングシステムなどは別途購入してください。   |

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。13ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

- パーティション構成について

Expressサーバでは、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域(保守用パーティション)が自動的に作成されます。



出荷時にオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、保守用パーティションは作成されていません。EXPRESSBUILDERを使ってセットアップをすると自動的に保守用パーティションを作成することができます。

## セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、Expressサーバのセットアップは必要不可欠なポイントです。

Expressサーバのセットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。

必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、Expressサーバが提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

### 1. 運用方針と障害対策の検討

Expressサーバのハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「Expressサーバの特長(2ページ)」に示すExpressサーバのハードウェアやソフトウェアが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

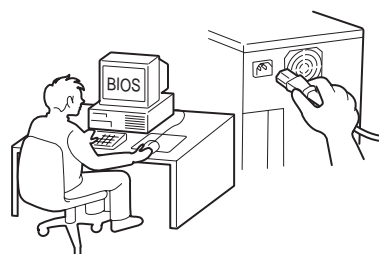
また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社、および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手です。





## 2. ハードウェアのセットアップ

Expressサーバの電源をONにできるまでのセットアップを確実にを行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、14ページに示す手順に従ってください。



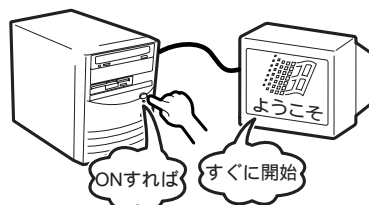
ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

## 3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

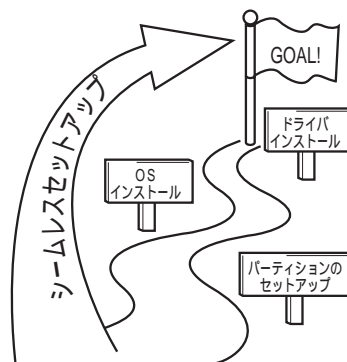
初めてのセットアップでは、お客様が注文されたモデルによってセットアップの方法が異なります(7ページ参照)。

「カスタムインストールモデル」を購入された場合は、Expressサーバの電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。詳しくは、12ページに示す手順に従ってください。



「プレインストールモデル」が「ディスクレスモデル」を購入された場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」が提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス(切れ目なく)で自動的に行われます。

再セットアップ(カスタムインストールモデルも含む)の際もシームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わって行ってくれます。詳しくは、17ページに示す手順に従ってください。



[ インストールするOSによってシームレスセットアップの手順が少しだけ変わります ]

Express5800/110EcがサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版 (以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ)
- Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 日本語版 (以降、「SBS」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows NT 4.0」では、ディスクアレイの設定から管理用ソフトウェアのインストールまでの作業をシームレスセットアップが行います。Expressサーバ固有のセットアップはOSを除く)シームレスセットアップが代わりに行ってくれます。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

「SBS」では、シームレスセットアップは行わず、すべてマニュアルにてセットアップを行います。詳しくは「マニュアルセットアップ(33ページ)をご覧ください。

#### 4. 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows NTに関するセットアップについては27ページをご覧ください。

#### 5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアや、シームレスセットアップやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、Expressサーバと同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、Expressサーバを管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

#### 6. システム情報のバックアップ

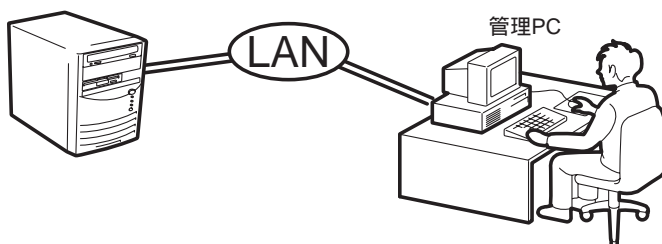
保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使ってExpressサーバのマザーボード上にある設定情報のバックアップを作成します。マザーボードの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは32ページをご覧ください。

---

### 各運用管理機能を利用するにあたって

Expressサーバで障害監視などの運用管理を行うには、Expressサーバに添付されたESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManager、または別売の同ソフトウェアが必要となります。

この後で説明するセットアップ手順、またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストール、および必要な設定を行ってください。

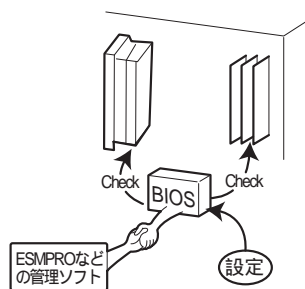


\* 管理PCはExpressサーバで代用できます。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

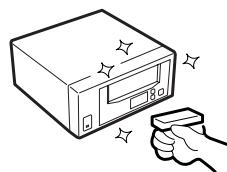
サーバ管理機能を利用するにあたって

- メモリ縮退機能を利用する場合、およびCPUやメモリを交換した場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS(94ページ)」を参照して「Memory Reconfiguration」の各項目を設定してください。(メモリ縮退機能は、出荷時の状態で自動的に働きます。)
- サーバの各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク/ファン)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。



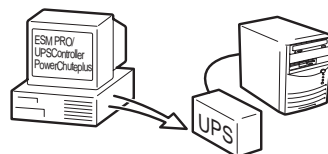
ストレージ管理機能を利用するにあたって

- DAT装置を使用する場合は、クリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。



電源管理機能(UPS)を利用するにあたって

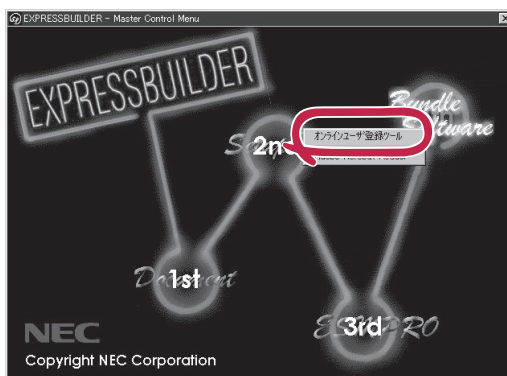
- 無停電電源装置(UPS)を利用するには、専用の制御用ソフトウェア(ESMPRO/UPSController、PowerChuteplus)または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。
- 無停電電源装置(UPS)を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS(94ページ)」を参照して、「System Hardware」メニューにある「AC-LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。



# ユーザー登録

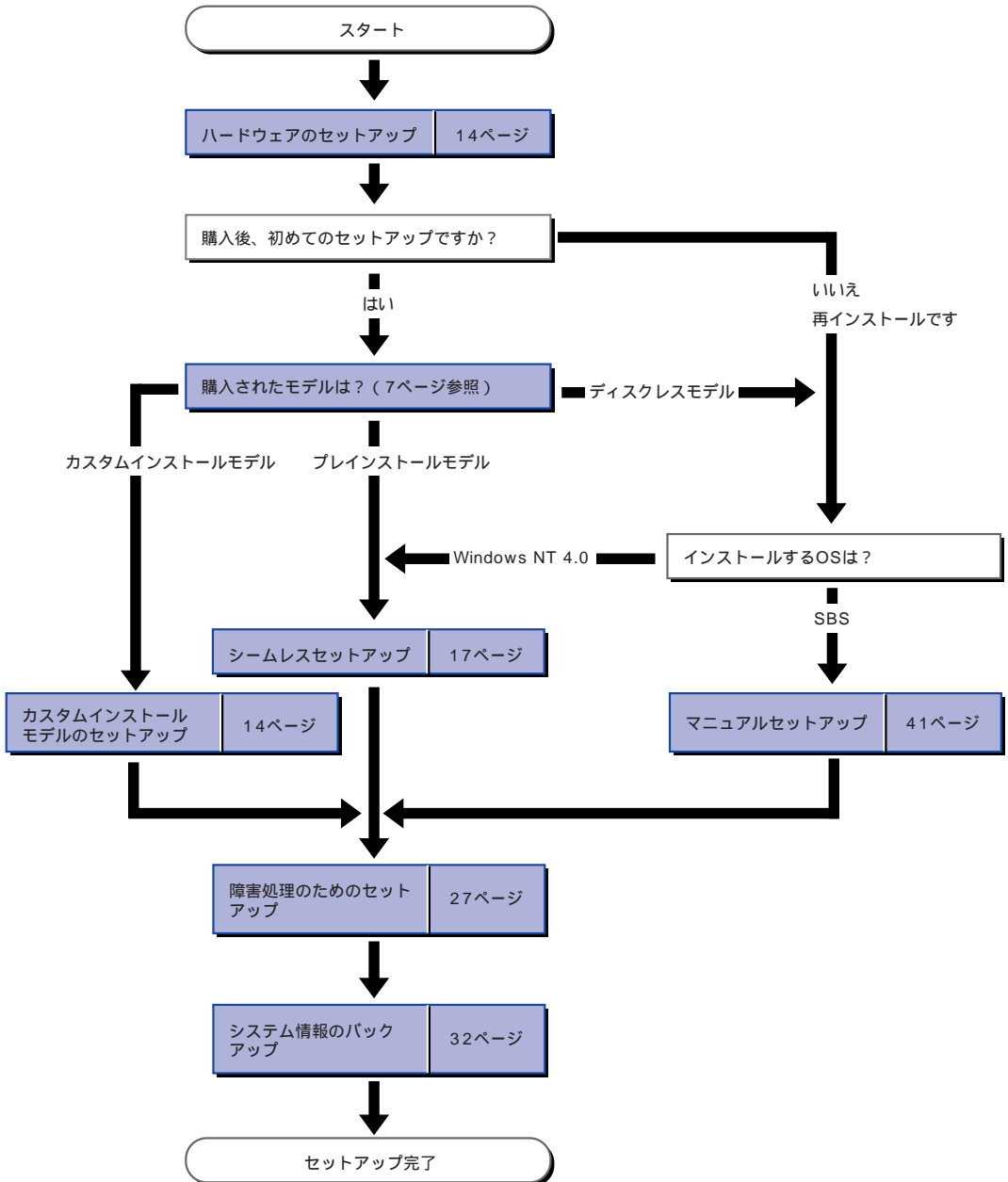
添付の「お客様登録申込書」に所定事項をご記入の上、投函してください。ユーザー登録はインターネット（<http://www.express.nec.co.jp/>）または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」にある「オンラインユーザ登録ツール」を利用して登録することもできます。（「オンラインユーザ登録ツール」では、インターネットかダイヤルアップのいずれかの方法で登録することができます。ただし、Windows 95/98およびWindows NT 3.51ではEXPRESSBUILDERの「オンラインユーザ登録ツール」の一部の機能が使用できません。このツールを使う場合は、Windows NT 4.0で動作するコンピュータを使ってください。）

1. Windows NT 4.0を起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。  
マスターコントロールメニューが表示されます。
3. メニュー上の[ 4th [ Bundle Software ) をクリックする。  
メニューが表示されます。
4. [ オンラインユーザ登録ツール ] をクリックする。  
オンラインユーザ登録ツールが起動します。画面に従って登録を完了してください。



# セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際にも参照してください。



# ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 別途購入されたオプションのメモリやボード、デバイスを取り付ける。( 69ページ)
2. Expressサーバを使用するのに最も適した場所( 環境 )に設置する。( 54ページ)
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置をExpressサーバに接続する。( 56ページ)
4. 添付の電源コードをExpressサーバと電源コンセントに接続する。( 56ページ)
5. Expressサーバの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。  
96ページに示す設定例を参考にしてください。

# カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」で購入された「カスタムインストールモデル」のハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、Expressサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。



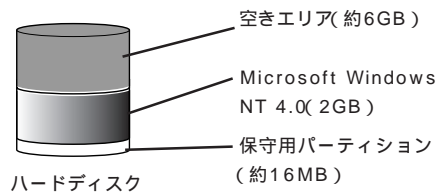
チェック

ここで説明する手順は、「カスタムインストールモデル」で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他のモデルのセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

## セットアップをはじめる前に ~ 購入時の状態について ~

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

Expressサーバのハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。右図は、標準的なExpressサーバのハードディスクの構成について図解しています。

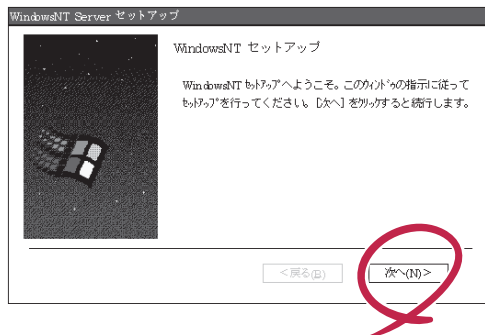


## セットアップの手順

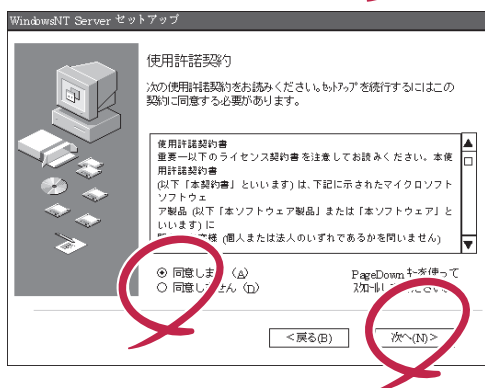
次の手順でExpressサーバを起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにし、そのままWindows NTを起動する。  
[ WindowsNT Server セットアップ ]画面が表示されます。

2. [ 次へ ] ボタンをクリックする。  
[ 使用許諾契約 ] 画面が表示されます。

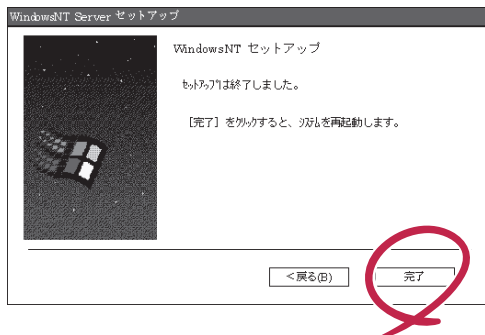


3. [ 同意します ] にチェックをして、[ 次へ ] ボタンをクリックする。  
以降、ユーザー名やプロダクトIDなどの設定画面が次々と表示されます。



4. 画面の指示に従って必要な設定をする。  
セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. [ 完了 ] ボタンをクリックする。  
Expressサーバが再起動します。



6. 「ファイルシステムをNTFSに変換しますか?」というメッセージが表示されます。

**ヒント**

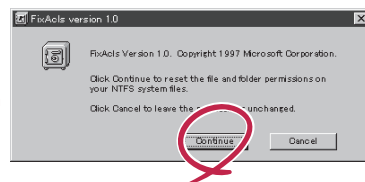
ハードディスクのファイルシステムは FAT でフォーマットされています。ただし、4GB をこえるパーティションサイズでインストールされている場合は、あらかじめ NTFS に変換されているため、上記メッセージは表示されません。手順 8 に進んでください。

7. ファイルシステムを NTFS に変換する場合は [ OK ] ボタンをクリックする。FAT のまま使用する場合 [ キャンセル ] ボタンをクリックする。

[ OK ] ボタンをクリックすると自動的にリブートします。その後は画面の指示に従ってセットアップを続けてください。

**重要**

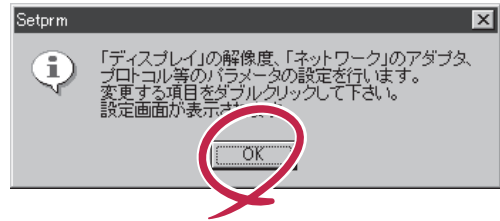
ファイルシステムを NTFS にコンバートした場合必ず Administrator 権限を持ったユーザでログオンしてください。また、ログオン後に [ FixAcls version 1.0 ] ダイアログボックスが表示されます。必ず、[ Continue ] ボタンをクリックしてください。



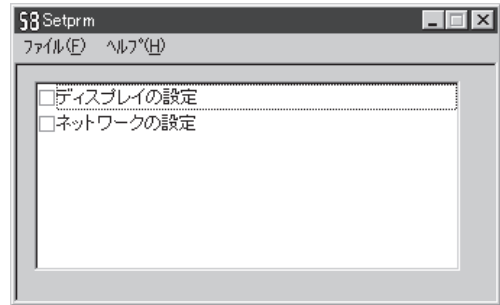
**チェック**

4GB を超えるパーティションを設定しているときはすでに NTFS に変換されていますので、上記メッセージは表示されずに [ Setprm ] の画面に移ります。

8. [ Setprm ]画面が表示された後、[ OK ]ボタンをクリックする。



- [ Setprm ]画面を表示後、自動的にコントロールパネルのディスプレイを選択したときの画面が表示されます。



9. 解像度を設定する。

[ Setprm ]画面に自動的に戻った後、コントロールパネルのネットワークを選択したときの画面が自動的に表示されます。

10. 必要に応じてネットワークの設定をする。

**重要**

ネットワークの設定を行った場合は、再起動が必要になりますが、ここで再起動しないでください。

11. 27ページを参照して「障害処理のためのセットアップ」を行う。

12. Expressサーバを再起動する。

13. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定、およびその確認をする。

インストール済みのソフトウェアは以下の通りです。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス\*
- ESMPRO/UPSControler(本ソフトウェアを購入された場合のみ)\*
- PowerChutePlus(本ソフトウェアを購入された場合のみ)\*

上記のソフトウェアで「\*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定、または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

14. 32ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールモデルでの初めてのセットアップは終了です。再セットアップする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。



# シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressサーバをセットアップします。



「Microsoft BackOffice Small Business Server Version 4.5 日本語版」はシームレスセットアップではインストールできません。[33ページのマニュアルセットアップを参照](#)してインストールしてください。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows NT 4.0)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるといったものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressサーバのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressサーバをセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておく、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Expressサーバの他にWindows 95/98、またはWindows NT 3.51以降で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、129ページで説明しています。

# OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

---

## 本装置がサポートしているOSについて

Express5800/110EcがサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版 (以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ)
- Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 日本語版 (以降、「SBS」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

---

## Windows NT 4.0について

Windows NT Server 4.0 日本語版 (Windows NT 4.0) は、シームレスセットアップですべてインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設やExpressサーバ本体のセットアップ (BIOSやオプションボードの設定) をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- 「ブレインストールモデル」で初めて電源をONにする場合について  
グラフィックスアクセラレータドライバはシームレスセットアップの完了後に36ページの「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してインストールしてください。初めてのセットアップでは「グラフィックスアクセラレータボードの設定」で他のボードを設定しても標準VGAでインストールされます。この手順は、「ブレインストールモデル」で初めてセットアップをする場合にのみ必要となります。その他のモデルや、再セットアップの時には必要ありません。
- Service Packについて  
Expressサーバでは「Service Pack 5」を適用することができます。「Service Pack 3」を適用したい場合は、セットアップ情報ファイルを作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップをして、Windows NTの起動後に32ページを参照して、「システムのアップデート」を行ってください。
- シームレスセットアップを完了した後に27ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

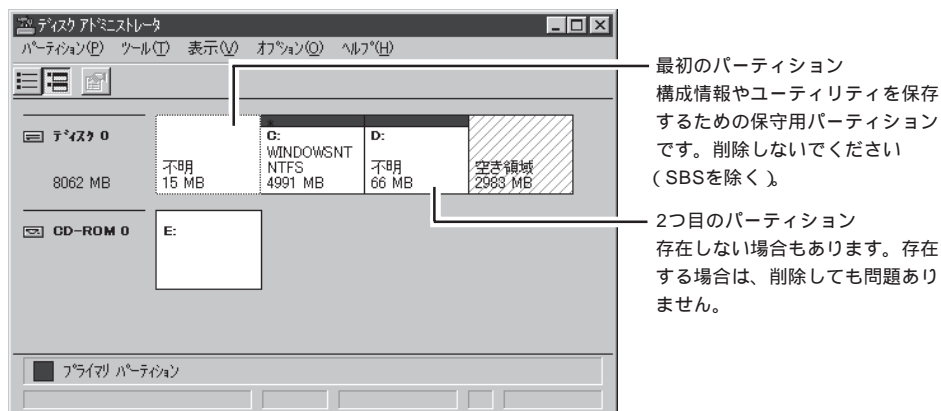
## MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

## ディスク構成について

### 「不明」な領域について

ディスク領域に、「不明」な領域が表示される場合があります。



### その他

ディスクアドミニストレータを使用してミラー化されているパーティションにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、インストール完了後に再度ミラー化してください。



ミラー化あるいはミラーの解除は、ディスクアドミニストレータの[フォールトトレランス]メニューから行えます。

## 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned}
 &200\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\
 &200\text{MB} &&= \text{インストールに必要なサイズ} \\
 &\text{ページングファイルサイズ(推奨)} &&= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \\
 &\text{ダンプファイルサイズ} &&= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB}
 \end{aligned}$$



ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できません。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$200\text{MB} + (512\text{MB} + 12\text{MB}) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 1248\text{MB}$$

となります。

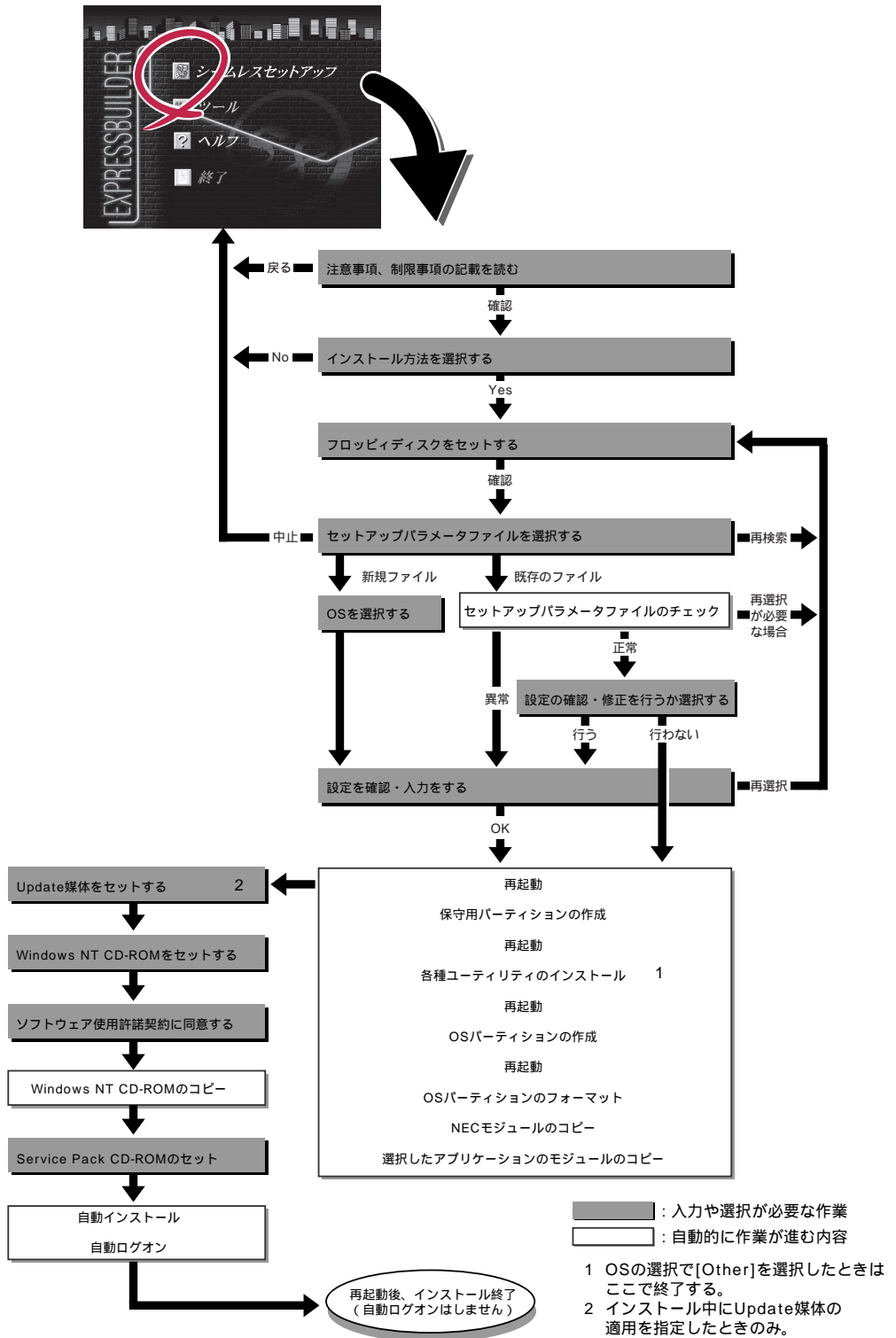
---

## SBSについて

Microsoft BackOffice Small Business Server Version 4.5 日本語版(SBS)に関する注意事項については、「マニュアルセットアップ(33ページ以降)」で説明しています。  
また、SBSのインストールは、シームレスセットアップは行わず、すべてマニュアルにてセットアップを行います。詳細は「マニュアルセットアップ」の「SBSのセットアップ(41ページ以降)」で説明しています。

# セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



## セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



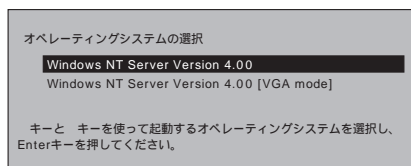
- Windows NTをインストールする場合について

- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows NTの起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows NT 4.0 Serverインストールサプリメントガイド」を参照してください。
- Service Packについて

Expressサーバでは「Service Pack 5」を適用することができます。「Service Pack 3」を適用したい場合は、セットアップ情報ファイルを作成時に「サービスの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップをして、Windows NTの起動後に32ページを参照して、「システムのアップデート」を行ってください。

- 「プレインストールモデル」で初めて電源をONにする場合について

プレインストールモデル(Windows NT4.0がインストール済みのモデル: 7ページ参照)で初めて電源をONにすると、ディスプレイ装置の画面に右に示すメッセージが表示されます。これは、Microsoft社のWindows NTインストーラが起動して表示される画面です。



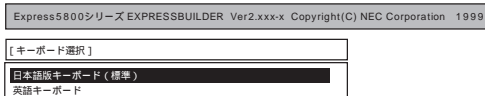
シームレスセットアップを使ってセットアップをする場合は、この画面表示で電源をOFFにするか、リセットして(<Ctrl> + <Alt> + <Del>キーを押す)EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットしてください。この画面から先に進んでしまった場合は、34ページを参照してインストールを進めるか、はじめからインストールし直すしかありません。また、グラフィックスアクセラレータドライバはシームレスセットアップの完了後に36ページの「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してインストールしてください。初めてのセットアップでは「グラフィックスアクセラレータボードの設定」で他のボードを設定しても標準VGAでインストールされます。この手順は、「プレインストールモデル」で初めてセットアップをする場合にのみ必要となります。その他のモデルや、再セットアップの時には必要ありません。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Del>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。  
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. Expressサーバで使用するキーボードを選択する。

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

しばらくすると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。



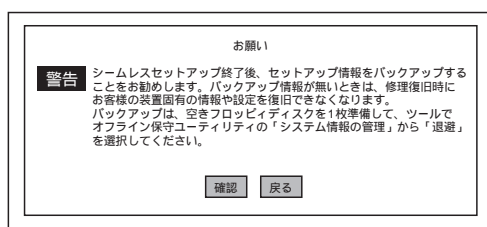
5. [ シームレスセットアップ ] をクリックする。

「お願い」が表示されます。



6. 記載内容をよく読んでから[ 確認 ] ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[ 確認 ] ボタンをクリックする。



「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、空の1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[ 確認 ] ボタンをクリックしてください。

[ 設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合 ]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど) 再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

確認する場合は[ 確認 ]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ スキップ ]ボタンをクリックする。

- [ 確認 ]ボタン をクリック 手順 8へ進む
- [ スキップ ]ボタンをクリック 手順9へ進む

[ ブランクディスクをセットした場合 ]

リストボックスの「 」をクリックするか、<A>キーを押す。

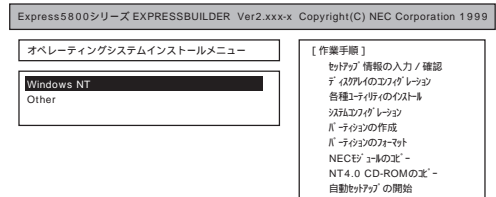
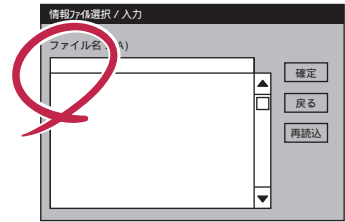
入力ボックスが表示されます。

ファイル名を入力する。

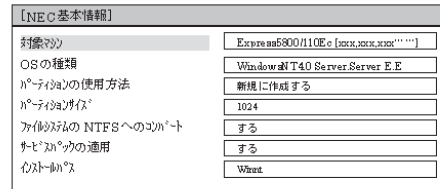
[ オペレーティングシステムインストールメニュー ]が表示されます。

リストボックスから[ Windows NT 4.0 ]を選択する。

[ NEC基本情報 ]画面が表示されます。



8. 設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[ 次へ ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[ 次へ ] [ 戻る ] [ ヘルプ ] ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。



再読込 次へ ヘルプ

### 重要

- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション（保守用パーティションを除く）の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

| 第1パーティション    | 第2パーティション | 第3パーティション | 第4パーティション |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| <保守用パーティション> |           |           |           |
| 保持           | 削除        | 保持        | 保持        |

- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- 4GBを超えるパーティションサイズを指定したとき、Service Pack 5は必須です。この場合、Windows NTを起動後もアンインストールできません。また、[ ユーザ情報 ]画面の[ 会社名 ]は必ず入力してください。

### ヒント

[ NEC基本情報 ]画面にある[ 再読込 ]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[ 再読込 ]ボタンは、[ NEC基本情報 ]画面にのみあります。

設定を完了すると自動的に再起動します。



## 9. 保守用パーティションを作成する。

保守用パーティションは次の手順で自動的に作成されます。



すでに保守用パーティションが存在する場合、保守用パーティションの作成はスキップします。

保守用パーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。

保守用パーティションをフォーマットします。

保守用の各種ユーティリティをインストールします。終了後、自動的に再起動します。

<手順 7 [ ブランクディスクをセットした場合 ] の [ WindowsNT ] を選択した場合は、この後の手順を続けてください。[ Other ] を選択した場合は以上でシームレスセットアップを終了します。>

## 10. OS領域を作成する。

OS領域は次の手順で自動的に作成されます。

OS用のパーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。



[ NEC基本情報 画面の「パーティションの使用方法」メニューで「既存パーティションを使用する」を選択していた場合、パーティションの作成は行いません。

OS用パーティションをフォーマットします。

## 11. Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。



[ Update媒体の適用 ] で「しない」を選択した場合は、スキップされます。



「Update媒体」とは、弊社がWebなどから発行する不具合解消用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

## 12. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

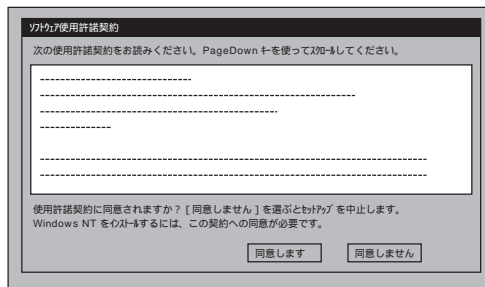
[ ソフトウェア使用許諾契約 ] 画面が表示されず。



13. よく読んでから、同意する場合は、[ 同意します ] ボタンを、同意しない場合は、[ 同意しません ] ボタンをクリックする。

 **重要**

同意しないと、セットアップは終了し、Windows NTはインストールされません。



14. メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
15. Service Pack 5のインストールを行う指定をしている場合は、メッセージに従ってService Pack 5 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows NT 4.0と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

[ WindowsNTへようこそ ] ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

 **チェック**

Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。バックアップドメインコントローラの場合は、自動的にログオンしません。

16. 次ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
17. 32ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

## 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

### メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



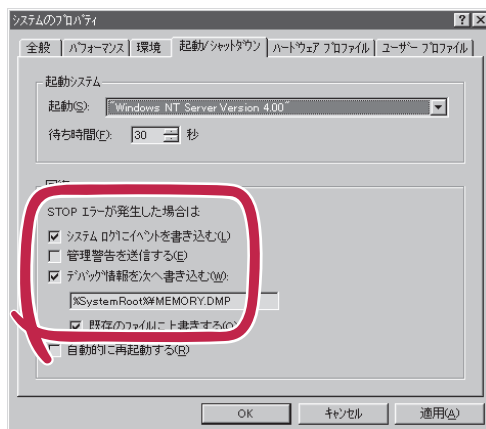
#### メモリダンプの注意

- **重要** メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、メモリダンプを採取するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。  
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。
4. [システムログにイベントを書き込む]をチェックする。
5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェックする。
6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。  
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



#### **重要**

Expressサーバに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。

7. [パフォーマンス]タブをクリックする。

- [ 変更 ] ボタンをクリックする。  
[ 仮想メモリ ] ダイアログボックスが表示されます。
- [ 選択したドライブのページングファイルサイズ ] ボックスの [ 初期サイズ ] を [ 推奨 ] 値以上に変更し、[ 設定 ] ボタンをクリックする。

### 重要

ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できません。「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(19ページ)」を参照してください。

- [ OK ] ボタンをクリックする。  
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

### 重要

設定後、障害が発生してシステムが再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。

## ワトソン博士の設定

Windows NTワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

- スタートメニューの [ ファイル名を指定して実行 ] をクリックする。

- [ 名前 ] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[ OK ] ボタンをクリックする。

[ Windows NT ワトソン博士 ] ダイアログボックスが表示されます。

- [ ログファイルパス ] ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

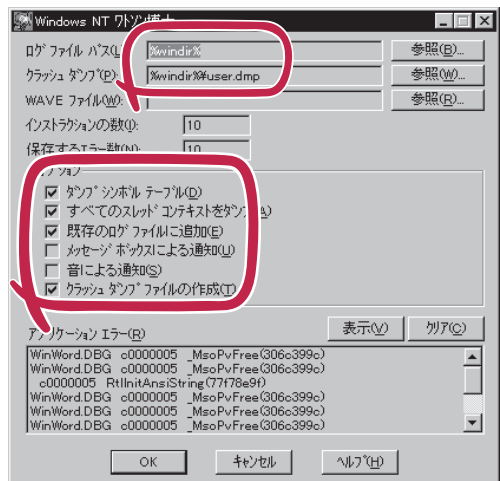
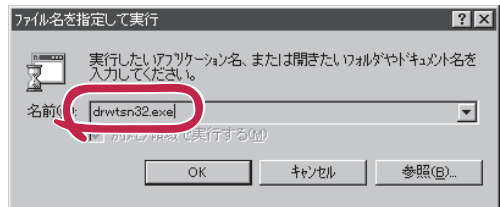


ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

- [ クラッシュダンプ ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

ダンプシンボルテーブル  
 すべてのスレッドコンテキストをダンプ  
 既存のログファイルに追加  
 クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]ボタンをクリックする。

## システム修復情報の更新

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするために、システム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィギュレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。



システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。

この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。

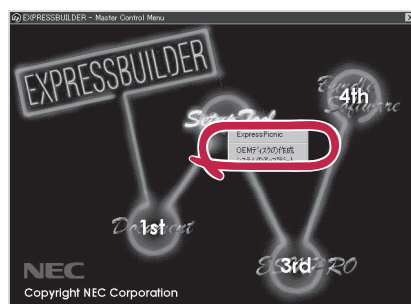
Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。



システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクをセットするよう要求される場合があります。

EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」の「OEMディスクの作成」を選択してディスクを作成してください（すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません）。

詳しくはオンラインドキュメントの「Microsoft Windows NT 4.0 Serverインストールサプリメントガイド」を参照してください。

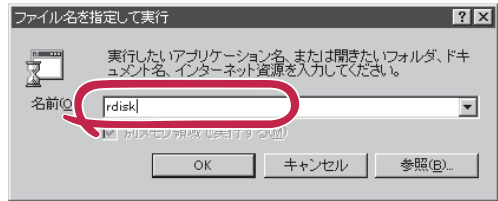


- 「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」はシステムのバックアップを目的としたものではありません。
- 運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。

1. スタートメニューの[ ファイル名を指定して実行 ]をクリックする。

2. [ 名前 ]ボックスに「rdisk.exe」と入力し、  
[ OK ]ボタンをクリックする。

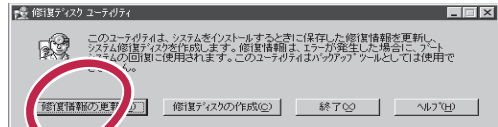
[ 修復ディスクユーティリティ ]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ 修復情報の更新 ]ボタンをクリックする。

4. [ はい ]ボタンをクリックする。

「システム修復ディスクを作成しますか?」というメッセージが表示されます。



5. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[ はい ]ボタンをクリックする。

構成ファイルがフロッピーディスクにコピーされます。コピー後、[ 修復ディスクユーティリティ ]ダイアログボックスに戻ります。



6. [ 終了 ]ボタンをクリックする。

---

## ネットワークモニタ

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

OSインストール中にネットワークモニタをインストールする場合

ネットワークドライバの選択が完了し、メッセージの指示に従ってインストールを行っていると、サービスを追加するウィンドウが表示されます。

1. [一覧から選択]をクリックする。

[ネットワークサービス]の一覧が表示されます。

2. [ネットワークサービス]の一覧から、[ネットワークモニタツールとエージェント]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

以降、メッセージの指示に従って、OSのインストールを続行してください。

## OSインストール後にネットワークモニタをインストールする場合

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。  
[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。
3. [サービス]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックする。  
[ネットワークサービスの選択]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ネットワークサービス]の一覧から、[ネットワークモニタツールとエージェント]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。  
[WindowsNT セットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
5. Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。  
ただし、CD-ROMドライブのドライブ文字が正しく指定されていない場合は、正しい値に変更してください。  
[ネットワーク]ダイアログボックスに戻ります。
6. [閉じる]ボタンをクリックし、システムを再起動する。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム] [管理ツール(共通)]をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

## 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、Express5800/110Ec監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressサーバ/ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」が収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。

[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。

シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

## システムのアップデート ~ Service Packの適用 ~

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- Service Pack 3を適用する場合
- システム構成を変更した場合

次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。



重要

- システムのアップデートを行った場合は、必ず「システム修復情報の更新」を行ってください。
- Service Pack 3は、EXPRESSBUILDERには含まれていません。お客様でご用意ください。

1. 管理者権限のあるアカウント( Administratorなど )で、システムにログインする。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのCD-ROMドライブにセットする。
3. [ 2nd [ Setup Tool ] を左クリックし、メニューから[ システムのアップデート ] をクリックする。

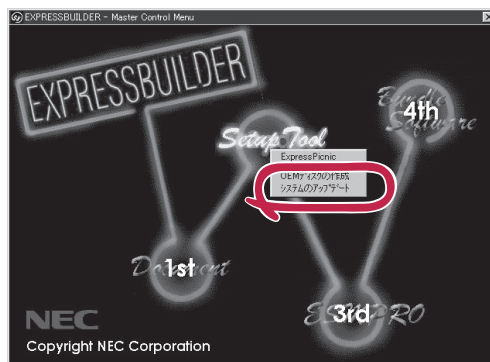
Service Packの選択をするダイアログボックスが表示されます。



ヒント

ダイアログボックス内で右クリックすると表示されるポップアップメニューからも選択できます。

4. 適用するService Packを選択する。  
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。



## システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。  
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. 「ツール」-「オフライン保守ユーティリティ」を選ぶ。
4. 「システム情報の管理」から「退避」を選択する。  
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。



# マニュアルセットアップ

ここでは、次のOSをセットアップする場合の手順について説明します。

- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版 (以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ) [34ページ](#)
- Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 日本語版 (以降、「SBS」と呼ぶ) [41ページ](#)

## サポートディスクを用意してください

ここで説明する「マニュアルセットアップ」では、「Windows NT用: Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれる「サポートディスク」が必要です。

「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows NTやSBSのインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前にWindows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを2枚用意する。
2. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
3. ExpressサーバのCD-ROMドライブに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

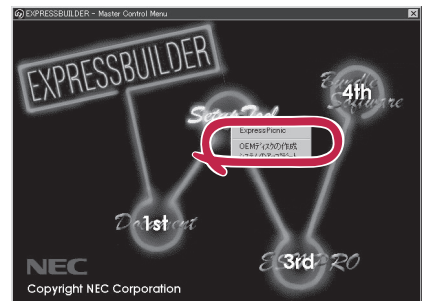
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

作成した「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Expressサーバの他にWindows NT 4.0、またはWindows 95/98で動作するコンピュータをお持ちの場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からWindows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。



## Windows NT 4.0のセットアップ

Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版をセットアップする場合は、[シームレスセットアップ](#)を使うことをお勧めします。詳しくは17ページの説明をご覧ください。

ここではブレインストールモデルにインストール済みのWindows NT 4.0をシームレスセットアップを使わずにセットアップする場合の手順について説明します。

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順については、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows NT 4.0 Serverインストールレーションサプリメントガイド」を参照してください。

---

### セットアップの開始

セットアップを始める前に本書と「ファーストステップガイド」を用意してください。

1. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. POWERスイッチを押す。

Expressサーバは自動的にPOSTを開始し、その後「オペレーティングシステムの選択画面」が表示されます。

3. <Enter>キーを押す。

[ソフトウェア使用許諾契約]ダイアログボックスが表示されます。  
<PageDown>キーを押して、ページをスクロールしながら、記載事項をよく読んでください。



4. 使用許諾契約の記載事項に同意してセットアップを続ける場合は、[同意します]ボタンをクリックする。同意しない場合は[同意しません]ボタンをクリックしてセットアップを終了する。

使用許諾契約に同意するとWindows NTセットアップウィザードが起動し、セットアップが始まります。

#### 重要

以降の手順を進めている間に中断するとシステムを破壊してしまいます。最後まで続けてください。

5. 画面の指示に従ってセットアップを続ける。

詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。



ヒント

- セットアップの途中で「システム修復ディスク」を作成する画面が表示されます。ここで、「修復ディスクを作成する」にしても、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合は、1枚のフロッピーディスクでは入りきらなくなることがあります。  
この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。  
Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。
- セットアップの途中でネットワークドライバのインストールを行うステップがあります。セットアップが完了した後もインストールすることができます。「ドライバのインストールと詳細設定」(36ページ)でセットアップ中でのネットワークドライバなどのインストール方法とセットアップ後のインストール方法を説明しています。参照してください。

「ファイルシステムをNTFSに変換しますか?」というメッセージが表示されます。



ヒント

ハードディスクのファイルシステムはFATでフォーマットされています。これは出荷時の設定です。

6. ファイルシステムをNTFSに変更する場合は「OK」ボタンをクリックする。

FATのまま使用する場合は「キャンセル」ボタンをクリックする。

7. 画面の指示に従ってセットアップを続ける。

システムの再起動を促すメッセージが表示されます。

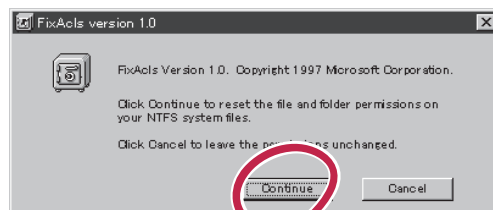
8. 「コンピュータの再起動」ボタンをクリックしてシステムを再起動させる。

以上でお客様の個人情報のセットアップが完了しました。

**重要**

- セットアップ情報の「ネットワークの設定」項目で、「インストール中にネットワークの設定を全手動で行う」を選んだ場合はインストール中にネットワークの設定をする必要があります。
- ファイルシステムをNTFSにコンバートした場合

ファイルシステムをNTFSにコンバートしたときは、必ず Administrator権限を持ったユーザでログオンしてください。また、ログオン後に「Fix Acls version 1.0」ダイアログボックスが表示されます。必ず、「Continue」ボタンをクリックしてください。



9. 次ページを参照してドライバをインストールする。

#### 重要

- インストール中にネットワークドライバのセットアップを済ませている場合は、インストールし直す必要はありませんが、HUBの設定が必要です。[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックした後、インストールしたネットワークドライバのプロパティダイアログボックスを表示させ、HUBの設定値と同じ値に設定してください。
- ディスプレイドライバは標準VGAがインストールされています。必要に応じてこの後の「ドライバのインストールと詳細設定」を参照し、装置に対応したグラフィックスアクセラレータドライバをインストールしてください。この手順は、「プレインストールモデル」で初めてセットアップをする場合にのみ必要となります。その他のモデルや、再セットアップの時には必要ありません。

10. 27ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

11. 32ページを参照してシステムをアップデートする。

12. 32ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

---

## ドライバのインストールと詳細設定

OSのセットアップの後、各種のドライバのインストールとセットアップを行います。ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

### ネットワークドライバ

標準装備のネットワークのドライバはWindows NTのインストール中にインストールすることをお勧めします(Windows NTをインストールした後でもインストールできますが、インストール後にシステムのアップデート(32ページ)をやり直さなければ正しく動作しません)。

オプションのネットワークボードのドライバについてはこの後の「オプションのネットワークボードのドライバ」を参照して、Windows NTのインストールが終了した後にインストールしてください。

#### ● 標準装備のネットワークドライバ

標準でネットワークポートを1つ用意しています(装置背面にあります)。このネットワークポートを使用するために次の手順に従って専用のネットワークドライバをインストールします。



チェック

ドライバをインストールするには、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です(33ページを参照して作成してください(すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません))。

<OSのインストール中にネットワークドライバをインストールする場合>

Windows NTのインストール中に「[ 検索開始 ]をクリックするとネットワークアダプタの検索を開始します。」というメッセージの入ったダイアログボックスが表示されます。

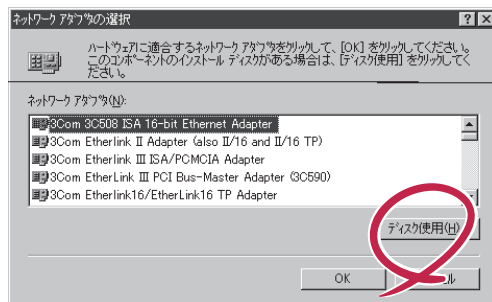
1. [ 一覧から選択 ]ボタンをクリックする。

[ ネットワークアダプタの選択 ]ダイアログボックスが表示されます。

2. [ ディスク使用 ]ボタンをクリックする。

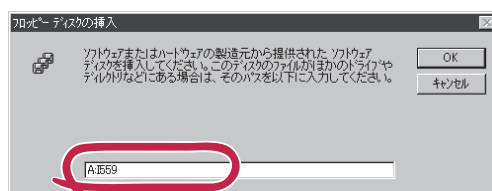
[ フロッピーディスクの挿入 ]ダイアログボックスが表示されます。

3. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。



4. 「A:¥1559」と入力し、[ OK ]ボタンをクリックする。

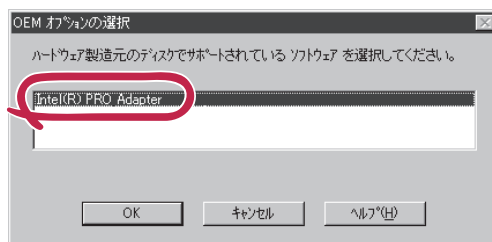
[ OEMオプションの選択 ]ダイアログボックスが表示されます。



5. [ Intel(R) PRO Adapter ]をクリックし、[ OK ]ボタンをクリックする。

6. [ 次へ ]ボタンをクリックする。

プロトコルやサービスの追加 / 削除を行うウィンドウが表示されます。必要に応じてプロトコルやサービスを追加 / 削除してください。



#### ヒント

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、30ページを参照してください。

以降は、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

#### 重要

インストールしたネットワークドライバは、転送速度/Duplexモードの設定が必要です。OSのインストール後に、[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックした後、ネットワークドライバのプロパティダイアログボックスを表示させ、[Advanced]タブをクリックし、[Speed]と[Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定してください。

<OSのインストール後にネットワークドライバをインストールする場合>

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。  
[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。
3. [アダプタ]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックする。  
[ネットワークアダプタの選択]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ディスク使用]ボタンをクリックする。  
[フロッピーディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。
5. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。
6. 「A:¥1559」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。  
[OEMオプションの選択]ダイアログボックスが表示されます。
7. [Intel(R) PRO Adapter]をクリックし、[OK]ボタンをクリックする。  
[ネットワーク]ダイアログボックスに戻ります。
8. [プロパティ]ボタンをクリックする。  
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
9. [Advanced]タブをクリックし、[Speed]と[Duplex]をHUBの設定に合わせる。
10. [OK]ボタンをクリックする。
11. [閉じる]ボタンをクリックする。  
プロトコルの種類などによっては、ここでネットワーク情報の入力が必要になります。
12. ネットワークアダプタのインストール終了後、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブから取り出す。
13. [ネットワーク設定の変更]ウィンドウで[はい]ボタンをクリックし、システムを再起動する。
14. 45ページの「システムのアップデート」を参照して、システムをアップデートする。



ネットワークドライバのインストール後、[ネットワークモニタ]をインストールすることをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、30ページを参照してください。

● オプションのネットワークドライバ

オプションのネットワークボード(LANボード)を使用している場合は、次の表とボードに添付されている説明書を参照してドライバのインストールを行ってください。その他のボードについては、各ネットワークボードに添付されている説明書を参照してください。

| LANボード    | ドライバの組み込み元        | 選択するアダプタ名   |
|-----------|-------------------|---|
| N8504-05  | Windows NT CD-ROM | AMD PCNET Family Ethernet Adapter                   |
| N8504-06  | Windows NT CD-ROM | AMD PCNET Family Ethernet Adapter                   |
| N8504-25B | ボードに添付のドライバディスク   | PCI Ethernet Adapter                                |
| N8504-32  | ボードに添付のドライバディスク   | DEC FDDI controller/PCI Adapter                     |
| N8504-33  | ボードに添付のドライバディスク   | DEC FDDI controller/PCI Adapter                     |
| N8504-34  | ボードに添付のドライバディスク   | DEC FDDI controller/PCI Adapter                     |
| N8504-39A | ボードに添付のドライバディスク   | Alteon Networks AceNIC PCI Gigabit Ethernet Adapter |
| N8504-75  | ボードに添付のドライバディスク   | Intel(R) PRO Adapter                                |

## グラフィックスアクセラレータドライバ

標準で装備されているグラフィックスアクセラレータドライバを以下の手順に従ってインストールしてください。



修復プロセスを使用してシステムを修復した場合も再度ドライバをインストールしてください。

1. スタートメニューの[プログラム]から[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
2. [画面]アイコンをダブルクリックする。  
[画面のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ディスプレイの設定]タブをクリックする。
4. [ディスプレイの種類]ボタンをクリックする。  
[ディスプレイの種類]ダイアログボックスが表示されます。
5. [変更]ボタンをクリックする。
6. [ディスク使用]ボタンをクリックする。
7. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
8. [配布ファイルのコピー元]ボックスに[D:¥WINNT¥VIDEO¥RAGE]と入力し、[OK]ボタンをクリックする。  
「D」にはCD-ROMのドライブレターが入ります。
9. [ディスプレイ]ボックスに[ATI RAGE IIC]が表示されているのを確認し、[OK]ボタンをクリックする。
10. [サードパーティドライバをインストールしようとしています。...]というメッセージが表示された場合には、[はい]ボタンをクリックする。
11. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。



## SBSのセットアップ

Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5 日本語版(SBSと呼ぶ)をセットアップする方法について説明します。

セットアップを始める前に次の注意事項をよく読んでください。

### 保守用パーティションの作成について

SBSのセットアップ前に「シームレスセットアップ」の実行などで、保守用パーティションの作成を行った場合は、「大容量記憶装置のセットアップ」後のWindows NTインストールパーティションの選択画面にて、保守用パーティション(最初に「不明」と表示されているパーティション)を削除してからセットアップを継続してください。

保守用パーティションが存在した状態でセットアップを行うと、「NTDETECT FAILED」というメッセージが表示され、セットアップが継続できなくなります。

### 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションサイズは2GB以上にしてください。

### 外付けモデムの電源について

Small Business Serverセットアップを起動する前に外付けモデムの電源をONにしてください。モデムの電源がOFFになっていたり、モデムに接続されていなかったりするとセットアッププログラムはモデムを検出できません。モデムを検出できないとモデム共有サービス、FAX サービス、ダイヤルアップネットワーク、およびインターネットアクセスソフトウェアの4つのSmall Business Server サービスをインストールできません。

### 再起動する際のフロッピーディスク取り出しについて

SBSの自動セットアップ機能により、メッセージによる確認なしで自動的に再起動が数回行われます。

再起動の前にフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出してください。セットしたまま再起動させると画面に「Boot:Couldn't find NTLDR.Please insert another disk.」というメッセージが表示されるか、何も表示されないまま停止してしまいます。この場合、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。

### その他

18ページの「Windows NT 4.0について」の注意事項も併せてご覧ください。

---

## インストールに必要なもの

SBSをインストールするために次のディスクと説明書を用意してください。

EXPRESSBUILDER(CD-ROM)

Microsoft BackOffice Small Business Server Version 4.5 日本語版(CD-ROMとセットアップディスク)

Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER(33ページ参照)

ファーストステップガイド

ユーザーズガイド(本書)

## システムの電源ON

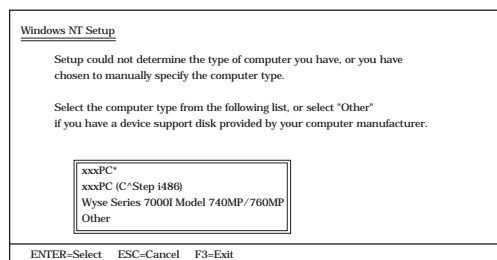
1. システムの電源をONにする。
2. 「Small Business Server Setup Disk #1」をフロッピーディスクドライブにセットする。
3. <Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら<Delete>キーを押す。  
Expressサーバが再起動します。

## Windows NT HALの置き換え

1. システムの電源ON後、画面が以下のどちらかの状態のときに<F5>キーを押す。
  - 「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」の表示中
  - 青一色の画面の表示中

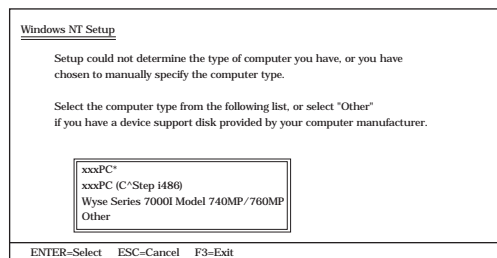
「Setup could not determine the type of computer you have, ...」というメッセージと選択画面が表示されます。

選択画面が表示されなかった場合は、<F5>キーが正しく押されていません。<F3>キーを押してセットアップを終了し、もう一度システムの電源ONから始めてください。



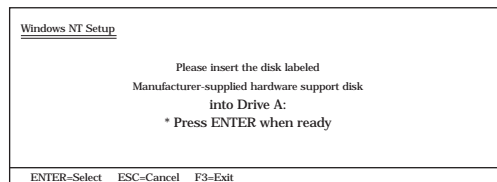
2. カーソルキーで「Other」を選び、<Enter>キーを押す。

製造元提供のハードウェアサポートディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを促すメッセージが表示されます。



3. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #1」をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

コンピュータの種類が表示されます。

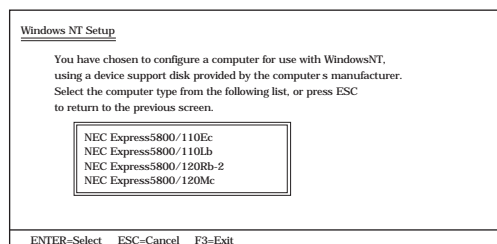


4. 使用しているコンピュータを選び<Enter>キーを押す。

5. メッセージに従って「Setup Disk #2」をフロッピーディスクドライブにセットしてインストールを続ける。



リストには一度に4項目までしか表示されません。選択したい項目が表示されていない場合は、カーソルキーでリストをスクロールさせてから選択してください。



## 大容量記憶装置のセットアップ

1. 「セットアップは、フロッピーディスク...」というメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押す。
2. メッセージに従って「Setup Disk #3」をフロッピーディスクドライブにセットしてインストールを続ける。

### Windows NT server セットアップ

セットアップは、フロッピーディスクコントローラと標準の ESDI/IDE ハードディスクを自動的に検出します。しかし、一部のコンピュータでは、SCSI アダプタや CD-ROM ドライブなどの大容量記憶装置の検出を行うと、一時的に反応しなくなったり、誤動作するものもあります。

このため、大容量記憶装置の検出を省略して、SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスクコントローラ（ドライブアレイなど）を手動で選択してインストールすることもできます。

- 続行するには、Enter キーを押してください。コンピュータの大容量記憶装置の検出を試みます。
- 大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスクコントローラを手動で選択してインストールできます。

F3 = 終了 Enter = 続行 S = 検出のスキップ

3. 「セットアップは、コンピュータに次の大容量...」というメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押す。

### Windows NT server セットアップ

セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました：

IDE CD-ROM (ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller

- Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、または特殊なディスクコントローラを追加して指定する場合は、S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイスサポートディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
- メーカーのデバイスサポートディスクがない場合、または Windows NT で使用する大容量記憶装置を追加して指定しない場合は、Enter キーを押してください。

S = 追加デバイスの指定 Enter = 続行 F3 = 終了

以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細についてはファーストステップガイドの第3章「BackOffice Small Business Serverのインストール」の「Small Business Serverのインストール」を参照してください。

ただし、SBSのセットアップの前に「シームレスセットアップ」の実行などで保守用パーティションの作成を行った場合は、Windows NTインストールパーティションの選択画面で保守用パーティション(最初に「不明」と表示されているパーティション)を削除してからセットアップを続けてください。保守用パーティションが存在した状態でセットアップを行うと、「NTDETECT FAILED」というメッセージが表示され、セットアップが継続できなくなります。

また、ネットワークドライバやグラフィックスアクセラレータドライバに関しては、Windows NTインストール時に自動で標準ドライバがインストールされますが、これらのドライバでは正常に動作しません。

「ネットワークドライバのインストール(次ページ)」、「グラフィックスアクセラレータのインストール(46ページ)」を参照してドライバをインストールし直してください。再インストールは「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5セットアップウィザード」を使ってセットアップをします。

---

## モデム未接続時の設定

装置にモデムを接続していない場合は、以下の点に注意してセットアップを行ってください。

- SBSセットアップ中に以下のメッセージが表示された場合は、[ OK ]ボタンをクリックし、作業を続けてください。

リモートアクセスはどのポートにも構成されていません。RASの構成が無効です。  
システムを再起動した後、コントロールパネルの[ ネットワーク ]を使ってリモートアクセスサービスを構成し、ポートを追加してください。

- 「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5セットアップウィザード」によるセットアップの[ インストールされたモデム ]画面で[ 次へ ]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。[ はい ]ボタンをクリックし、作業を続けてください。

コンピュータにモデムがインストールされていません。  
Microsoft FAX Server およびモデム共有サービスは、インストールされません。続行しますか？

- 「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5セットアップウィザード」によるセットアップにおいて、[ 電話のプロパティ ]画面はスキップされます。

---

## ネットワークドライバのインストール

OS のインストール時に、自動で標準ネットワークドライバがインストールされますが、このドライバではネットワークは正常に動作しません。

次の手順に従ってドライバを再インストールしてください。

 「システム修復ディスク」を使用してシステムを修復した場合も再度ドライバをインストールしてください。

1. 「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5 セットアップウィザード」によるセットアップにおいて、[ ハードウェアの確認 ]画面の[ 変更 ]ボタンをクリックする。  
[ コントロールパネル ]ウィンドウが表示されます。
2. [ ネットワーク ]アイコンをダブルクリックする。  
[ ネットワーク ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ アダプタ ]タブをクリックする。
4. [ ネットワークアダプタの一覧 ]から[ Intel 82557- based Ethernet PCI Adapter ]を選択し、[ 削除 ]ボタンをクリックする。  
[ 警告 ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [ はい ]ボタンをクリックする。  
[ ネットワーク ]ダイアログボックスに戻ります。

6. [ 閉じる ] ボタンをクリックする。  
[ ネットワーク設定の変更 ] 画面が表示されます。
7. [ はい ] ボタンをクリックし、システムを再起動する。
8. システム再起動後、手順1~2の方法で[ ネットワーク ] ダイアログボックスを表示させる。

**重要**

システム再起動後に、「1つ以上のサービスまたはドライバがシステム起動時にエラーになりました。詳しくはイベントビューアを使用してイベントログを確認してください」というメッセージが表示され、イベントビューアにエラーメッセージが記録されます。これは、ネットワークドライバが動作していないために発生します。適切なネットワークドライバをインストールすれば発生しなくなりますので、このまま作業を続けてください。

9. [ アダプタ ] タブをクリックし、[ 追加 ] ボタンをクリックする。  
[ ネットワークアダプタの選択 ] ダイアログボックスが表示されます。
10. [ ディスク使用 ] ボタンをクリックする。  
[ フロッピーディスクの挿入 ] ダイアログボックスが表示されます。
11. 「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。
12. パス名に「A:¥1559」を入力し、[ OK ] ボタンをクリックする。  
[ OEM オプションの選択 ] ダイアログボックスが表示されます。
13. [ Intel(R) PRO Adapter ] を選び、[ OK ] ボタンをクリックする。  
[ ネットワーク ] ダイアログボックスに戻ります。
14. [ プロパティ ] ボタンをクリックする。  
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
15. [ Advanced ] タブをクリックし、[ Speed ] と [ Duplex ] をHUBの設定に合わせて[ OK ] ボタンをクリックする。  
[ ネットワーク ] ダイアログボックスに戻ります。
16. [ ネットワーク ] 画面で [ 閉じる ] ボタンをクリックする。  
[ Microsoft TCP/IP のプロパティ ] ダイアログボックスが表示されます。
17. 以下の値を入力し、[ OK ] ボタンをクリックする。
  - IP アドレス : 10.0.0.2
  - サブネットマスク : 255.255.255.0
  - デフォルトゲートウェイ : 空白のまま
18. [ ネットワーク設定の変更 ] 画面で [ はい ] ボタンをクリックし、システムを再起動する。  
このときフロッピーディスクドライブから「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER」を取り出しておきます。

再起動後、引き続き「グラフィックスアクセラレータドライバのインストール」を行ってください。

---

## グラフィックスアクセラレータのインストール

ネットワークドライバのインストールが終了した後、次の手順でグラフィックスアクセラレータドライバをインストールしてください。

 **重要** 「システム修復ディスク」を使用してシステムを修復した場合も再度ドライバをインストールしてください。

1. 「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5 セットアップウィザード」によるセットアップにおいて、[ハードウェアの確認]画面の[変更]ボタンをクリックする。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [画面]アイコンをダブルクリックする。  
「色数が少なすぎるため、現在選択されているディスプレイの設定は無効になりました。...」というメッセージが表示されます。
3. [OK]ボタンをクリックする。  
[画面のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ディスプレイの設定]タブをクリックする。
5. [ディスプレイの種類]ボタンをクリックする。  
[ディスプレイの種類]ダイアログボックスが表示されます。
6. [変更]ボタンをクリックする。
7. [ディスク使用]ボタンをクリックする。  
[フロッピーディスクからインストール]ダイアログボックスが表示されます。
8. 「Small Business Server CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブから取り出す。
9. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。  
CD-ROMのアクセスランプが消灯するまで<Shift>キーを押し続けてください。
10. [配布ファイルのコピー元]ボックスに[D:¥WINNT¥VIDEO¥RAGE]と入力し、[OK]ボタンをクリックする。  
「D」にはCD-ROMのドライブレターが入ります。
11. [ディスプレイ]ボックスに[ATI RAGE IIC]が表示されているのを確認し、[OK]ボタンをクリックする。
12. 「サードパーティドライバをインストールしようとしています。...」というメッセージが表示された場合には、[はい]ボタンをクリックする。

13. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

「新しいグラフィックドライバがインストールされました。...」というメッセージが表示されます。



他の画面に隠れて表示されていない場合は、以下の手順を行ってください。

- (1) スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする
- (2) [画面]アイコンをダブルクリックする

14. [OK] ボタンをクリックする。

[画面のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

15. [ディスプレイの設定]タブで、デスクトップ領域を「800 × 600 ピクセル」に設定し、[テスト] ボタンをクリックする。

「新しいモードのテストを行います...」という確認メッセージが表示されます。メッセージの指示に従って、新しい画面モードのテストを行ってください。

16. 画面モードのテスト終了後、[OK] ボタンをクリックする。

「Small Business Server 4.5」のCD-ROM挿入メッセージが表示されます。

17. 「Small Business Server CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブにセットし、[OK] ボタンをクリックする。

以降は「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5セットアップウィザード」画面の指示に従ってセットアップしてください。

## システムのアップデート

「Microsoft BackOffice Small Business Server 4.5セットアップウィザード」が終了して、システムを再起動後、システムをアップデートしてください。詳しくは32ページをご覧ください。



適用するService Packには、Service Pack 5を選択してください。SBSではService Pack 3は適用できません。また、システム構成を変更した場合も、再起動前に必ずシステムをアップデートしてください。(システム構成後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は [いいえ] ボタンをクリックし、システムをアップデートしてください。)

## インストール完了後の作業

以上でインストールとセットアップは完了です。すべてのセットアップが完了したら、次のセットアップを行ってください。

- 障害処理のためのセットアップ(27ページ)
- 管理ユーティリティのインストール(31ページ)
- システム情報のバックアップ(32ページ)

